

嬉 望

第 7 号

兵庫教育大学 学校経営コース大学院生編集部

タイトルの嬉望は、兵教大メインキャンパスが嬉野台地区にあることと希望をかけた造語です。

●兵庫教育大学 事務局長インタビュー

今回は新谷 善之 事務局長にお話をうかがいました。2回に分けてインタビュー記事を掲載します。

1 教職大学院をめぐる国や文部科学省の動向についてお聞かせください。



中教審の教員の資質能力向上特別部会の審議経過報告でも、今後の教員養成の修士レベル化の方向が示されており、教職大学院については教員養成改革の中核を担うものとして期待されています。本学は 25 ある教職大学院（総定員約 830 人）の中でも最大の入学定員 100 人を擁する日本教職大学院協会の会長校です。今後の教員養成のリーダーとして期待されています。おそらく、本年度中に教育養成改革の大きな方向性とその実現に向けた具体策が示されると思う

ので、その動向を注視しています。教職大学院は、立ち上げから既に三年が経過しています。これまでの取組を振り返り、更なる発展に向けて改善を図る時期だと思っています。

2 兵庫教育大学の理事・事務局長としての取組についてお聞かせください。

昨年四月に就任して、一年三ヶ月が経過しました。学校経営、教育行政がご専門の加治佐学長の大学経営についての見識、高い専門性、リーダーシップに感銘を受けつつ、楽しく仕事をしています。

私自身も、大学経営の基本に顧客第一主義を置き、常に国民全体をステークホルダーとしてとらえ、国民は何を求めているかを自問しながら、第一義的には、院生・学部生の立場から発想するようにしています。

昨年度、学長の強いリーダーシップの下、食堂の改善、ベーカリーカフェの誘致、丸善ブックショップの改善を一気に進めることができました。「かじちゃんパン」、本学のラベル「楽」山田錦の銘酒、などのヒット商品も生まれました（笑）。まだまだ改善を図る予定ですので、お楽しみに。

「かじちゃんパン」はクリームがぎっしり入っていて美味しいですね。「楽」もまろやかで美味しいお酒です。CM になってしまいました（笑）。ところで、最近学内がきれいになりましたが・・・。

教員を育てる大学、現職教員が学ぶ大学院として、ゴミ一つないキャンパスをつくりたい、という思いから、学内の環境整備、キャンパスクリーンデー、清掃業者への指導徹底なども行っています。

寮も以前よりかなりきれいになりネット環境も改善され住みやすくなりました。

先導的研究として、4プラス・アルファの研究も副委員長の立場で、主に文部科学省や中央教育審議会との連絡調整に当たっています。この研究は、今後の教員養成改革に非常に重要な意味を持つものであり、本学にとっても大きな影響があります。しっかり取り組んで行きたいと思っています。

事務職員には、国家公務員から法人職員への意識改革を徹底し、顧客第一主義、接客も徹底して行きたいと思っています。

(8号へ続く)

●授業の一環として「採用審査実習」を実施

6月下旬に、1年生の専門科目「教職員の職能開発と研修プログラム」の一環として、「採用審査実習」を実施しました。これは、教員の「採用」の現状理解と、実習を通じて若手教員の育成のヒントを得ようとするものです。実習は、「個人面接」「集団面接」「模擬授業」で、対象は採用試験をひかえた学部4年生です。

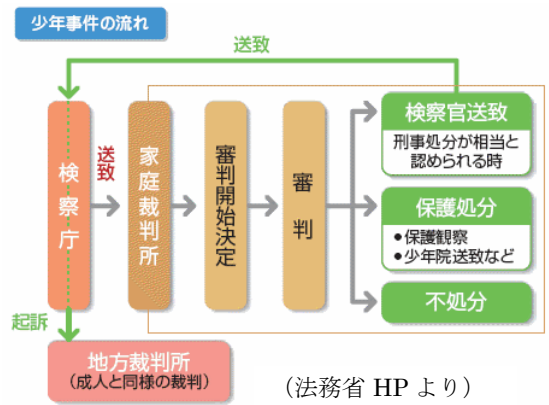


例年、現職教員である学校経営コース院生による審査実習は学部学生の評判が高く、学生間の申し送りがあるのか、今回も多数の希望者がありました。採用審査に関わるテキストや資料をもとに準備し、学生に対しても、面接後の講評だけでなく、一人ひとりにアドバイスを書面で渡したり、模擬授業では、学生の前で模範を見せたりする丁寧さが評判につながっているようです。

●シリーズ 兵庫教育大学教職大学院の授業 ⑥

～児童生徒の問題行動に関する事例研究A～（共通基礎科目）

今回の授業紹介は、1年前期に開講されている「児童生徒の問題行動に関する事例研究A」です。この科目では、いじめ・不登校・学力不振・学級崩壊・校内暴力・非行・性非行などの**従来型の問題行動に加え**、児童虐待・薬物乱用・ネット犯罪・自殺・殺人等の**複雑、深刻な問題行動**の背景理解・心の問題対応・学校の危機管理・家庭、地域、関係機関との連携システムづくりなどの生徒指導実践力の向上を図ることを目的としている。**元児童相談所職員や元家裁調査官、中学校生徒指導担当者等々の講義**を受けるなど、高度な実践事例に触れることができました。また、マサチューセッツ工科大（MIT）で考案された**インシデント・プロセス法**による事例研究やシカゴ大学で考案された**シカゴ方式**による事例研究などの方法を用いて、現職教員大学院生が実際に



（文科省 HP より）

体験してきた事例をもとに演習するなど、より身近なものについても話し合い、考えます。また**家庭裁判所や少年鑑別所へ実際に行って**見聞を広める機会もあります。授業を受けて、深刻な現実^に気持ちが暗くなる^{こと}が何度もありました。しかし、ほとんどの学校現場で避けて通れない問題であり、私たち学校経営コースの者にとっては、最前線で頑張る先生の支援、組織的な予防・対応法、外部資源との連携・コーディネート、若い先生の問題行動対応能力の育成、最終責任者としての心構え、そして子どもの健全な成長のために大切であり、その視点を持ちながら授業を受けました。また、心理学的な理論、カウンセリングの理論や実践もこの授業で扱います。特殊解で一般解のない問題がほとんどですが、基盤になる理論を知り、多くの事例を知り、関係機関の役割・機能を学び、その結果として総合的な予防・対応能力が高まったと感じました。

左はこの授業担当者でもある本学の**新井肇教授**が作成に関わられた文科省発行の冊子の表紙です。

●浅野教授が地域連携講座に出講



6月18日（土）、大学の地元の加東市において、北播磨地域5市1町との連携講座に、学校経営コースの浅野良一教授が出講しました。本講座は、本学と北播磨地域5市1町との連携事業で、会場を埋め尽くす約250名もの地域住民が参加しました。浅野教授は、「ドラッカーに学ぶマネジメント入門ー仕事、学校生活、日常生活の知恵ー」と題して、評判となっているドラッカーの著作から、企業など組織で重要視される「マネジメント」を、自らの仕事や日常生活に活用することについて、身近な題材でわかりやすく解説し、その興味深い内容に地域住民の皆さんは熱心に聞き入っていました。土曜日でしたが、学校経営コースの多くの学生も参加し、授業の学校組織マネジメントの学びをより深めることができました。



●地域連携講座について

上の記事でも紹介しましたが、兵庫教育大学では地域との連携事業を展開しています。右は7月・8月の地域連携講座の予定です。なお、学校経営コースの廣岡徹教授は地域連携センター長も担当されています。この講座に関する問い合わせ先：企画課 広報・社会連携事務室（橋本、井神、北条）TEL 0975-44-2053 E-mail office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

市	場所	日時	講師	講座のテーマ	内容
加西市	アステアかさい	7月23日(土) 13:00～15:00	本間 均教授 (認識形成教育コース)	国際理解	講師の20年余りのアメリカ生活の体験を交えながら、日本人が国際社会の中で果たすべき役割、そのための自己改革、英語教育のあり方などを考えます。
小野市	コミュニティセンターおの	7月23日(土) 19:00～20:30	森田 啓之准教授 (行動開発系教育コース)	子どものスポーツ、その光と影	子どもの成長・発達にとって、スポーツは大きな可能性を有している。しかし、使い方を誤れば望ましくない結果をもたらすことにもなる。スポーツ少年団活動や運動部活動などのあり方について、「本人」としてどう関わるべきかを一緒に考えたい。
西脇市	西脇市生涯学習まちづくりセンター	7月30日(土) 13:30～15:30	大野 裕史教授 (臨床心理コース)	発達障害の理解と対応	自閉性障害やAD/HDなどの発達障害の理解の仕方、そしてその理解にもつた対応の仕方についてお話します。
三木市	三木市立教育センター	8月1日(月) 10:00～11:30	竹西 重吉教授 (心の教育実践コース)	ネガティブ情報のコミュニケーション	ネガティブな情報を伝えねばならない時、どのような姿勢や考え方をもち、コミュニケーションに臨めばよいのだったか。リスクコミュニケーション(危険性の伝達)の研究からわかったことや、信頼を増うために必要なコミュニケーションの基本をお話します。単なるノウハウやスキルからではなく、教師のコミュニケーションのあり方について一緒に考えていきます。
多可町	多可町中央公民館	8月10日(水) 13:30～15:00	中間 玲子准教授 (教育コミュニケーションコース)	自尊感情の心理学	生き生きと自分らしく生きるために自尊感情は大事だといわれます。でも、自尊感情って何でしょうか？なぜ大事なのでしょう。ここでは、自尊感情の定義や性質を説明し、自尊感情を支える自己評価や自己愛について考えていきます。